

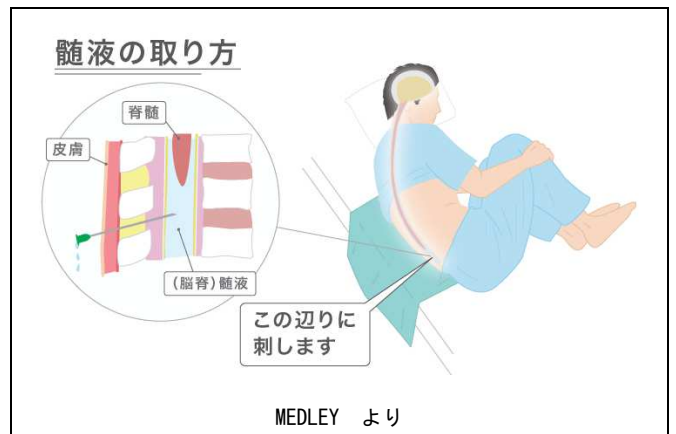
夫は血液のがん、悪性リンパ腫になりました。悪性リンパ腫は60種類以上もあるのですが、その中のバーキットリンパ腫に分類されました。子どものリンパ腫では、このタイプが多いのですが、大人では100万人に一人くらいで、少ないそうですし、駒込病院でも治療例は多くはないということでした。この際、夫は自分の病気を一つの治療例として、自分の血液などのデータを役立ててほしいと願っています。



白血球が破壊されて、減少し、免疫力が落ち、感染症を発症したり、貧血になったりしましたから、「輸血」が必要となりました。今までに赤血球液を400cc、濃厚血小板を200ccなど、それぞれ4回輸血を受けました。看護師が、脈拍、血圧、血中酸素濃度、体温など、たえずチェックしながら、輸血の点滴を見守る、とてもデリケートな作業でした。輸血は手術に区分されているようですが、私には一種の移植のような感じがしました。同じ血液型とはいえ、見知らぬどなたかがドナーとなって献血され、保存された血液が夫の一部になってくれたということになります。

実は夫を知ったのは、学生時代に教会の青年会が献血をしようと呼びかけ、日赤の献血センターに十数名で出かけた折でした。苦学生だった夫は貧血状態で献血が出来なかったのです。気の毒でした。でもそれ以来、私たちは65歳くらいまで、たびたび献血をしてきました。きっと、このように役立ってきたでしょう。ちなみに夫はB型、私はAB型です。

また、血液は全身に回っていますから、リンパ腫はどこに発症するかわかりません。脳や目に転移しやすいと言われています。そのため、脳脊髄液の検査が必要とされています。背中から腰椎の間に、直系3mm、長さ10cmで、中が空洞になっている針を刺して、脳脊髄液を吸引します。また同時に、骨髄に抗ガン剤を注入するという治療をします。病院の説明書には「血液の細胞は骨の中心部の骨髄という組織で作られています」とあり、骨髄は重要な造血器で、骨髄のなかにある骨髄血が、血液のもとになり、骨髄で作られた血液は全身へ送られます。



私はこれまで骨の中で血液が作られているとは知りませんでした。骨粗しょう症にならないように気をつけ、骨密度をあげようと、栄養、ビタミンD、カルシウム、運動などを考えてきましたが、骨の中心の骨髄を守ることも大切なのですね。自分の体なのに、知らないことが多く、恥ずかしい限りです。夫はこれまで脳脊髄液検査を3回受けて、その都度、無色透明な髄液で、がん細胞はなかったということで本当にほっとしています。もう一度受ける予定です。

骨髄という言葉が聖書に一回出てきます。2000年昔に、同じものように思える、精神と思ひ、関節と骨髄を区別して、認識する神の言葉の鋭さを説いています。

骨髄という言葉が聖書に一回出てきます。2000年昔に、同じものように思える、精神と思ひ、関節と骨髄を区別して、認識する神の言葉の鋭さを説いています。

神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。(ヘブル4:12b)

「切り離して、刺し通す」とは、神の言葉は徹底的です。現在の医療では、中身の成分を徹底的に調べ、必要に応じて、薬を注入したり、変化させたりできるようになってきています。